

# 中学1年生から2年生で学ぶ英語文法：学習指導要領改訂に基づく基本編と標準編の整理

## I. はじめに：中学校英語学習指導要領の改訂と文法学習の重要性

本レポートは、中学校における英語学習の基盤をなす文法事項を、中学1年生から2年生にかけての学習内容に焦点を当て、「基本編」と「標準編」に体系的に分類し整理することを目的としています。特に、2017年（平成29年）に告示された学習指導要領の改訂が、文法学習の範囲と配置に与えた影響を詳細に分析し、教育現場や家庭での効果的な学習計画立案に資する情報を提供します。

### 平成29年学習指導要領改訂の概要と英語教育への影響

平成29年の学習指導要領改訂は、中学校英語教育に大きな構造的変化をもたらしました。この改訂の最も顕著な特徴の一つは、文法事項の配置転換、特に「前倒し」と「追加」です。

まず、「前倒し」に関して、従来中学1年生と2年生に分散して学習されていた「時制」（現在形、過去形、未来形）が、中学1年生の段階で集中的に学習されるようになりました<sup>1</sup>。これに伴い、「現在進行形」と「過去進行形」も中学1年生の学習内容に統合されています<sup>1</sup>。この変更により、中学1年生の段階で「現在、過去、未来」の全ての基本的な時制を網羅的に理解することが求められるようになりました。

次に、「追加」に関して、これまで高校で扱われていた一部の文法事項が、中学校の範囲に組み込まれました。具体的には、「現在完了進行形」「感嘆文」「仮定法のうち基本的なもの」などが、中学校卒業までに学ぶべき項目として追加されています<sup>3</sup>。これらの変更は、生徒がより複雑で豊かな表現力を身につけ、コミュニケーション能力を向上させることを目指す改訂の意図を反映しています<sup>5</sup>。

これらの変更は、中学1年生の学習内容の質と量を以前よりも高める結果となりました。特に時制の集中学習や高校内容の一部前倒しは、中学1年生の段階での英語学習の初期段階

が、以前にも増して重要であることを示唆しています。もしこの初期段階で基本的な動詞の活用、人称、時制の概念が確実に定着しない場合、その後の学習において大きな障壁が生じる可能性があります。したがって、教師はより効率的かつ効果的な導入方法を模索し、生徒はより積極的な反復学習に取り組むことが求められます。

## 「基本編」と「標準編」の定義と本レポートにおける位置づけ

本レポートでは、文法事項を「基本編」と「標準編」に分類し、それぞれの位置づけを明確にします。

「基本編」は、全ての生徒が中学校段階で確実に習得すべき、英語の骨格をなす最も基盤的な文法事項を指します。これらは、簡単な日常会話や基本的な文章の読み書きに不可欠な要素であり、新学習指導要領で前倒しされた内容を多く含みます。これらの項目は、英語の「型」を理解し、文を正しく組み立てるための土台となります。

一方、「標準編」は、基本編の知識を土台とし、より複雑な思考や表現を可能にする発展的な文法事項を指します。これには、新学習指導要領で中学校に「追加」された内容や、教科書によって導入時期に幅があるものの、中学2年生までに理解を深めることが期待される応用的な概念が含まれます。

学習指導要領は「何を学ぶか」の枠組みを示しますが、具体的な「いつ学ぶか」は各教科書や学校に委ねられています<sup>2</sup>。例えば、現在完了形や現在完了進行形といった特定の文法事項の導入時期は、教科書によって異なる可能性があります。このため、「標準編」の定義には、この多様性を考慮した柔軟な視点が必要となります。教師は、使用する教科書の内容を深く理解し、生徒の習熟度に合わせて「基本編」と「標準編」のバランスを調整した指導計画を立てることが求められます。生徒にとっては、自分の教科書がどの文法事項をいつ導入しているかを把握し、必要に応じて先取り学習や補強学習を行うことが有効であると考えられます。

## II. 中学1年生で学ぶ英語文法事項

中学1年生の英語学習は、その後の英語力形成の土台を築く極めて重要な段階です。この時期に学ぶ文法事項は、英語の基本的な構造と運用のルールを理解し、簡単なコミュニケーションを可能にすることに重点が置かれています。

## A. 基本編: 英語学習の土台を築くコア文法

中学1年生の「基本編」では、英語の「文」がどのように構成されるか、その最も基本的なルールを習得することに主眼が置かれます。

- 品詞の基礎  
英語の文を理解し、組み立てる上で不可欠なのが品詞の概念です。名詞、代名詞、動詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞といった主要な品詞の役割を理解します<sup>7</sup>。特に、文の主演となる名詞・代名詞と、動作や状態を表す動詞の区別は、英語学習の初期段階における最も重要な事項の一つです。
- be動詞と一般動詞の使い分け  
英語の動詞の二大柱であるbe動詞(am, are, is)と一般動詞の基本的な意味と用法を学びます。例えば、「I am Tom.」と「I play soccer.」のように、be動詞は主語の状態や存在を表し、一般動詞は具体的な動作を表します。両者が一つの文で同時に使われないという原則を理解することは、正しい文を構築する上で不可欠です<sup>7</sup>。
- 肯定文、否定文、疑問文の基本構造  
英語のコミュニケーションの基礎となるのが、肯定文、否定文、疑問文の構造です。be動詞と一般動詞を用いたそれぞれの文の作り方、特に否定文における"not"や"don't/doesn't"の使用、疑問文におけるbe動詞の倒置や"Do/Does"の使用方法を習得します<sup>7</sup>。これらの型を習得することで、基本的な情報伝達が可能になります。
- 現在形と過去形(be動詞・一般動詞、不規則動詞の導入)  
日常の習慣や普遍的な事実を表す現在形と、過去の出来事を表す過去形を学びます。一般動詞の過去形には、動詞の語尾に"-ed"をつける規則変化と、形が大きく変わる不規則変化動詞があり、不規則変化動詞の導入は今後の語彙学習の基礎となります<sup>7</sup>。
- 命令文とLet's～  
相手に指示や提案をする際に用いる命令文の形(動詞の原形から始まる)と、「～しよう」と誘う"Let's～"の表現を習得します<sup>7</sup>。これらは、具体的な行動を促すコミュニケーションに役立ちます。
- 疑問詞(What, When, Where, Who, Which, How)の基本  
特定の情報を尋ねるための疑問詞(5W1H)の基本的な使い方を学びます。これらの疑問詞が文頭に来る疑問文の構造を理解することが、より詳細な情報を得るための質問を構築する上で重要です<sup>7</sup>。
- There is/are～構文  
「～がある/いる」という存在を表す"There is/are～"の構文を学びます。この構文は、場所を示す前置詞(in, on, underなど)と組み合わせて使われることが多く、物の位置や存在を説明する際に頻繁に用いられます<sup>7</sup>。
- 助動詞 can

「～できる」という能力や可能性を表す助動詞"can"の基本的な使い方を学びます。助動詞の後には動詞の原形が続くというルールは、他の助動詞を学ぶ上でも共通の重要な原則としてここで確立されます 9。

- 時制の統合(現在、過去、未来の表現の基礎)

学習指導要領の改訂により、中学1年生で「現在、過去、未来」の全ての基本的な時制を学ぶことになりました 1。"will"や"be going to"を用いた未来の表現もこの段階で導入され、時間の流れに沿った表現の基礎が築られます 1。

中学1年生の基本編の学習は、英語の「型」を学ぶ段階と位置づけられます。この段階で、英語の文がどのような要素で構成され、それらがどのような語順で並ぶのかという「型」を確実に身につけることが、その後の応用的な学習の成否を大きく左右します。英語を「パズルのピース」として捉え、正しい位置に配置する感覚を養うことが重要となります。この時期の学習は、単語の意味を覚えるだけでなく、それらの単語がどのように並べられて意味をなすのか、という「語順」と「構造」の理解に重点を置くべきです。特に、be動詞と一般動詞の使い分け、否定文・疑問文の作り方は、英語の根幹をなすため、徹底した反復練習と定着が求められます。

## B. 標準編: 応用力を高める発展文法

中学1年生の「標準編」では、基本編で習得した知識を基に、より具体的な状況やニュアンスを表現するための文法事項を学び始めます。

- 現在進行形と過去進行形

「～しているところだ」という進行中の動作を表す現在進行形(be動詞＋～ing)と、過去のある時点で進行していた動作を表す過去進行形(was/were＋～ing)を学びます 1。これらは時制の統合の一環として中学1年生で扱われ、より動的な表現を可能にします。

- 未来の表現(willとbe going to)

「～だろう」「～するつもりだ」という未来の出来事を表す"will"と"be going to"の二つの表現を学び、その使い分けのニュアンスを理解し始めます 1。これも時制の統合の一環であり、未来に関する意図や予測を表現する上で不可欠です。

- 不定詞の導入(名詞的用法)

「～すること」という名詞の働きをする不定詞(to＋動詞の原形)の名詞的用法を導入します 7。これは、動詞を名詞のように扱う新しい概念であり、「I like to play soccer.(私はサッカーをすることが好きです。)」のように、表現の幅を広げます。

- 動名詞の導入

「～すること」という意味で、動詞を名詞のように扱う動名詞(動詞の～ing形)を導入します 7。不定詞の名詞的用法との類似点や違いを意識し始め、「I enjoy playing soccer.(私はサッカーをすることを楽しむ。)」のように用いられます。

- 比較の基礎(as～as)  
「～と同じくらい...だ」という同等比較を表す"as～as"の構文を学びます 9。これは、比較表現の基礎となり、物事を比較する際の基本的な表現力を養います。
- 複数形、代名詞の格変化(所有格、目的格、所有代名詞)の深化  
名詞の複数形の規則・不規則変化をさらに習熟させ、代名詞の主格(I, you, heなど)、所有格(my, your, hisなど)、目的格(me, you, himなど)、所有代名詞(mine, yours, hisなど)の使い分けを深めます 7。これにより、より正確な文を構築できるようになります。

中学1年生の「標準編」で学ぶ文法事項は、単なる文法ルールの暗記に留まらず、それぞれの文法がどのような「意味」や「ニュアンス」を付け加えるのか、という概念的な理解を深めることが重要です。特に、不定詞と動名詞は日本語にはない概念であり、初期段階でその「感覚」を掴むことが、後の複雑な用法理解に繋がります。これらの文法を習得することで、生徒は表現できる内容を「事実」から「進行中の動作」「未来の予定」「目的・願望」へと広げ、より複雑な情報を英語で伝えられるようになります。

表1: 中学1年生 英語文法項目一覧: 基本編と標準編

カテゴリ	文法項目	説明/ポイント
基本編	品詞の基礎	名詞、代名詞、動詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞の役割
	be動詞/一般動詞	動詞の区別、肯定・否定・疑問文の作り方
	現在形/過去形	日常の習慣、過去の出来事の表現。不規則動詞の導入
	命令文/Let's～	指示や提案の表現
	疑問詞 (5W1H)	What, When, Where, Who, Which, Howの基本的な使い方
	There is/are～	「～がある/いる」の表現と前置詞の組み合わせ
	助動詞 can	「～できる」という能力・可能性の表現
	現在進行形	「～しているところだ」という進行

		中の動作
	過去進行形	「～していたところだ」という過去の進行中の動作
	未来形 (will, be going to)	「～だろう」「～するつもりだ」という未来の表現
	複数形	名詞の複数形の規則・不規則変化
	代名詞 (主格, 所有格, 目的格)	I/my/me, you/your/youなどの使い分け
標準編	不定詞 (名詞的用法)	「～すること」(to + 動詞の原形)
	動名詞 (基礎)	「～すること」(動詞の～ing形)
	比較 (as～as)	「～と同じくらい...だ」という同等比較
	代名詞 (所有代名詞, 再帰代名詞の基礎)	mine, yours, myselfなどの導入

### III. 中学2年生で学ぶ英語文法事項

中学2年生の英語学習は、1年生で築いた基礎の上に、より複雑で洗練された表現力を身につける段階です。文の構造を深く理解し、多様な状況に対応できる英語力を養うことが目標となります。

#### A. 基本編:1年生内容の定着と2年生の基礎

中学2年生の「基本編」は、1年生で学んだ文法事項の確実な定着を図りつつ、2年生で導入される新たな文法事項への橋渡しを行います。

- 1年生文法事項の復習と応用

中学1年生で学んだbe動詞・一般動詞の各時制(現在、過去、未来、進行形)の確実な運用、否定文・疑問文の応用、疑問詞を使った複雑な質問の作成など、基本的な内容を



様々な文脈で使いこなせるように復習・強化します 9。特に、不規則動詞の過去形・過去分詞形の暗記は、継続的な課題として取り組みます 9。

- 助動詞(must, may, shouldなど)の多様な意味と用法  
「～しなければならない」の"must"、「～してもよい」「～かもしれない」の"may"、「～すべきだ」の"should"など、様々な意味を持つ助動詞を学びます 7。これらの助動詞が持つニュアンスの違いを理解し、文脈に応じて適切に使い分けることが重要です。
- 不定詞の発展(形容詞的用法、副詞的用法)  
1年生で導入された不定詞の概念をさらに深めます。名詞を修飾する「～するための」「～すべき」といった形容詞的用法(例: a book to read)や、目的や原因を表す「～するために」「～して(感情の原因)」といった副詞的用法(例: I went to the park to play soccer.)を学びます 7。これにより、表現の幅が大きく広がります。
- 動名詞の発展と不定詞との使い分け  
動名詞の用法をさらに深め、"enjoy"や"finish"などの特定の動詞の後に動名詞が続くケースや、前置詞の後に動名詞が続くケースなどを学びます 7。不定詞と動名詞の使い分けのルールやニュアンスの違いを理解することが、より自然な英語表現に繋がります。
- 接続詞(when, if, that, becauseなど)の深化  
二つの文や句をつなぐ接続詞の役割を学びます。「～するとき」の"when"、「もし～ならば」の"if"、「～ということ」の"that"、「～だから」の"because"など、基本的な接続詞を用いて、より複雑な意味を持つ文を構成できるようになります 7。

中学2年生の「基本編」は、単に新しい文法事項を学ぶだけでなく、それらを組み合わせてより長く、より意味の通じる文を作る練習に重点を置くべき時期です。助動詞、不定詞の多様な用法、接続詞の導入により、生徒は単純な文から、目的、原因、条件、修飾といった複雑な情報や関係性を含む文を構築できるようになります。これは、文部科学省が重視する「思考力、判断力、表現力等」の育成<sup>12</sup>に直結する段階であり、生徒が自分の考えをより正確に、かつ豊かに表現するための重要なステップとなります。

## B. 標準編: 複雑な表現を可能にする文法

中学2年生の「標準編」では、英語表現の幅を飛躍的に広げる、より高度な文法概念を導入します。

- 比較級と最上級(-er/-est, more/most, as～asの応用)  
「～よりも...だ」という比較級(～er than, more～than)と、「最も～だ」という最上級(the～est, the most～)を学びます 7。1年生で学んだ同等比較"as～as"の応用も含め、物事を比較・評価する表現力を高めます。
- 受動態(be動詞+過去分詞)

「～される」「～された」という、動作を受ける側を主語にする受動態の形(be動詞＋過去分詞)を学びます 7。これにより、表現の視点を変えることができるようになります。例えば、「A dog bit me.(犬が私を噛んだ。)」を「I was bitten by a dog.(私は犬に噛まれた。)」と表現できるようになります。

- 現在完了形(継続、経験、完了用法)  
「～し続けている」「～したことがある」「～してしまった」という、過去から現在へとつながる動作や状態を表す現在完了形(have/has＋過去分詞)を学びます 3。これは、日本語にはない時制の概念であり、習得には時間を要します。現在完了形は過去と現在の繋がりを表すため、日本語話者には馴染みが薄く、習得に時間がかかる傾向があります。教科書によっては中学2年生の後半または中学3年生で本格的に導入されることもあります 2。この文法項目は、生徒が英語の持つ独特な時間感覚を掴む上で大きな壁となることが多いため、十分な時間をかけ、具体的な文脈の中で繰り返し練習することが不可欠です。
- 分詞の形容詞的用法(現在分詞、過去分詞)  
「～している...」「～された...」のように、名詞を修飾する現在分詞(～ing)と過去分詞(～ed/不規則変化)の形容詞的用法を学びます 3。例えば、「a sleeping baby(眠っている赤ちゃん)」や「a broken window(割れた窓)」のように、より簡潔で自然な表現が可能になります。
- 間接疑問文の導入  
疑問文が別の文の一部として組み込まれる間接疑問文(例: I don't know what his name is.)の基本的な形を学びます 4。これは、より丁寧な表現や複雑な情報伝達に役立ちます。
- 感嘆文の導入  
「なんて～なんだ!」という感情を表す"What a/an～!"や"How～!"といった感嘆文の基本的な形を学びます 3。これにより、感動や驚きといった感情を英語で表現できるようになります。
- 仮定法(基本的なもの)の導入  
「もし～ならば...だろうに」という、事実とは異なる仮定を表す仮定法(if I were you, I would～.など)の基本的な形が導入されます 3。これは、より高度な思考や想像を表現するための重要なステップであり、現実とは異なる状況を話す際に用いられます。

中学2年生の「標準編」で学ぶ文法事項は、英語を「道具」として使いこなす上で不可欠な要素です。比較、受動態、現在完了、分詞、間接疑問文、感嘆文、仮定法といった概念は、より複雑な状況描写、感情表現、仮定の話、情報整理を可能にし、コミュニケーションの質を向上させ、より「英語らしい」表現に近づけます。これらの概念は日本語には直接対応しないものが多く、生徒が英語の論理や感覚を体得する上で重要な役割を果たします。単なる知識としてではなく、実際に使ってみる「言語活動」を通して、これらの文法がどのようにコミュニケーションに貢献するのかを体験的に学ぶことが、真の定着に繋がります<sup>12</sup>。



表2: 中学2年生 英語文法項目一覧: 基本編と標準編

カテゴリ	文法項目	説明/ポイント
基本編	1年生内容の復習・応用	be動詞・一般動詞の各時制の確実な運用、不規則動詞の暗記
	助動詞 (must, may, shouldなど)	「～しなければならない」「～かもしれない」「～すべきだ」など
	不定詞 (形容詞的用法, 副詞的用法)	名詞修飾や目的・原因を表す用法
	動名詞 (発展)	特定動詞や前置詞の後の用法、不定詞との使い分け
	接続詞 (when, if, that, because など)	複数の文や句をつなぐ役割
標準編	比較級/最上級	「～よりも...だ」「最も～だ」の表現とas～asの応用
	受動態	「～される/～された」の表現 (be動詞 + 過去分詞)
	現在完了形 (継続, 経験, 完了)	過去から現在への繋がりを表す (have/has + 過去分詞)
	分詞の形容詞的用法	名詞を修飾する現在分詞(～ing)と過去分詞(～ed)
	間接疑問文	疑問文が文中に組み込まれる形
	感嘆文	感情を表す「なんて～なんだ!」(What/How)
	仮定法 (基礎)	事実と異なる仮定を表す「もし～ならば...だろうに」

#### IV. 文法学習における指導のポイントと留意事項

新学習指導要領下の英語教育は、単なる文法知識の習得に留まらず、「外国語を使って何ができるようになるか」というコミュニケーション能力の育成に重きを置いています<sup>12</sup>。この目標を達成するためには、文法学習をコミュニケーションの基盤として捉える視点が不可欠です。文法は、語彙や表現を適切に組み合わせ、自分の意図を明確に伝え、他者の発言を正確に理解するための「ルール」として位置づけられます。したがって、文法を学ぶ際は、その文法がどのような状況で、どのような意図を伝えるために使われるのかを意識させることが重要です。

### 新学習指導要領が求める「見方・考え方」の育成

学習指導要領では、外国語教育を通じて「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせることが重要であると明記されています<sup>12</sup>。これは、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりの中で捉え、コミュニケーションの目的や場面に応じて情報を適切に選択・表現する視点や思考法を指します。文法指導においても、単にルールを教えるだけでなく、なぜ英語ではそのような表現をするのか、日本語とどう違うのか、という比較を通じて、英語の論理や文化的な背景に気づかせるような問いかけや活動を取り入れることが有効です。例えば、受動態が日本語よりも頻繁に使われる理由や、時制が細かく分かれていることの意味などを考察させることで、生徒の「見方・考え方」を豊かにすることができます。これは、異文化理解を深め、多角的な視点から物事を捉える能力を養うことに繋がります。

### 効果的な文法指導のためのアプローチ

文法学習を効果的に進めるためには、いくつかの実践的なアプローチが考えられます。

- 文脈の中での学習: 文法は単体で教えるのではなく、実際の会話や文章の中でどのように使われているかを提示し、意味のある文脈の中で理解を深めることが効果的です<sup>12</sup>。例えば、教科書の本文やリスニング素材の中から文法事項を見つけ出し、その機能や意味を考察する活動が挙げられます。
- 反復練習とアウトプット: 習得した文法事項を定着させるためには、多様な形式での反復練習(例: 穴埋め、並べ替え、英作文)と、実際に声に出して使うアウトプット活動(例: 音読、シャドーイング、ペアワーク)が不可欠です<sup>13</sup>。特に、言語活動を通して文法を使う機会を積極的に設けることで、生徒は文法の知識を「生きた知識」として定着させることができます。

- 個別最適化: 生徒の理解度や学習スタイルは多様であるため、一斉指導だけでなく、個別の支援や発展的な課題を提供することで、全ての生徒が無理なく学習を進められるように配慮することが重要です。

## 「基本編」と「標準編」の連携と生徒の発達段階に応じた指導

本レポートで分類した「基本編」と「標準編」は独立したものではなく、相互に連携し、段階的に難易度が上がるように設計されるべきです。基本編で土台を固めた上で、標準編で応用力を養うという明確な学習パスを示すことが重要です。

生徒の発達段階や習熟度に応じて、標準編の内容を導入する時期や深さを調整する柔軟な指導が求められます。特に、一部の発展的な文法事項(例: 現在完了進行形、仮定法)は、教科書によって導入学年が異なる場合があるため<sup>2</sup>、教師は使用教材の特性を理解し、必要に応じて移行措置を講じる必要があります<sup>5</sup>。

「基本編」でつまづく生徒には徹底した基礎固めを、「標準編」をスムーズに習得できる生徒にはさらなる発展的な学習機会(例: より複雑な構文、長文読解、自由英作文)を提供することで、学習意欲を維持し、英語力の継続的な向上を促すことができます。デジタル教材やオンライン学習ツールの活用も、個別最適化を促進する上で有効な手段となります。

表3: 学習指導要領改訂による文法事項の主な変更点(中1・中2関連)

文法項目	旧学習指導要領での位置づけ(例)	新学習指導要領での位置づけ(例)	備考
時制(現在・過去・未来)	中1～中2に分散	中1に統合	英語の基本的な時間軸を早期に網羅的に学習
進行形(現在・過去)	現在進行形: 中1、過去進行形: 中2	中1に統合	動作の進行を表す表現を早期に習得
現在完了進行形	高校	中学	より複雑な時間の継続表現を中学校で導入
感嘆文	高校	中学	感情表現の幅を広げる

仮定法(基礎)	高校	中学	事実と異なる仮定の表現の基礎を導入
---------	----	----	-------------------

## V. 結論

新学習指導要領下の英語教育は、文法知識の習得だけでなく、それを活用した「コミュニケーション能力」の育成に重きを置いています。中学1年生で時制の基礎を固め、中学2年生で比較、受動態、現在完了といった複雑な表現を学ぶことで、生徒はより豊かで正確な英語表現力を身につけることが期待されます。

本レポートで整理した「基本編」で確実な土台を築き、「標準編」で応用力を高めるという段階的なアプローチは、生徒の着実な成長を促します。また、教科書間の内容配置の差異を理解し、生徒一人ひとりの学習状況に応じた柔軟な指導が、今後の英語教育においてますます重要となるでしょう。文法学習は、英語を「使える」ようになるための羅針盤です。本レポートが、中学校における英語文法指導の一助となり、生徒たちが自信を持って英語を学び、世界とつながる喜びを感じられるようになることを願っています。

## 引用文献

1. 【最新版】中学英語の教科書改訂が過去最大規模に！現役講師が変更点を徹底解説, 7月 7, 2025にアクセス、  
<https://www.manatera.com/blog/junior-high-school-english/>
2. TOTAL ENGLISH - 三省堂教科書, 7月 7, 2025にアクセス、  
[https://tb.sanseido-publ.co.jp/03ncpr/documents/document\\_pdf/03nc\\_ikou\\_te-nc\\_2.pdf](https://tb.sanseido-publ.co.jp/03ncpr/documents/document_pdf/03nc_ikou_te-nc_2.pdf)
3. 改訂された中2英語は何を学ぶの？学習指導要領を参考に詳しく解説 - Kimini英会話, 7月 7, 2025にアクセス、  
<https://kimini.online/blog/archives/27043>
4. 全英文法 チェックリスト - EEvideo, 7月 7, 2025にアクセス、  
<https://www.eevideo.net/sp/eibunpou-list.html>
5. TOTAL ENGLISH - 三省堂教科書, 7月 7, 2025にアクセス、  
[https://tb.sanseido-publ.co.jp/03ncpr/documents/document\\_pdf/03nc\\_ikou\\_te-nc.pdf](https://tb.sanseido-publ.co.jp/03ncpr/documents/document_pdf/03nc_ikou_te-nc.pdf)
6. 教科書対応表『NEW HORIZON』(東京書籍) - Z会, 7月 7, 2025にアクセス、  
[https://www.zkai.co.jp/wp-content/uploads/sites/21/2021/04/09155003/Fine\\_NEW\\_HORIZON.pdf](https://www.zkai.co.jp/wp-content/uploads/sites/21/2021/04/09155003/Fine_NEW_HORIZON.pdf)
7. 中学英語をもう一度ひとつひとつわかりやすく。改訂版 - 学研出版サイト, 7月 7, 2025にアクセス、  
<https://hon.gakken.jp/book/1130548200>
8. 「改訂版文法項目一覧表」の開発, 7月 7, 2025にアクセス、  
<https://osaka-seikei.repo.nii.ac.jp/record/2000087/files/%E5%A4%A7%E5%AD%A>

[6%E7%B4%80%E8%A6%8111\\_107.pdf](#)

9. 中学英語文法一覧: 三人称単数など中1、中2、中3で習う英文法を ..., 7月 7, 2025にアクセス、<https://gakusyu.live/2023/04/03/tyugakusei-eigobunpoichiran/>
10. ニューホライズン NEW HORIZON 1年 Unit 1 Part1 文法 be動詞と一般動詞 中学英語教科書 2025改訂版 - YouTube, 7月 7, 2025にアクセス、  
<https://www.youtube.com/watch?v=jq8w9-OheFo>
11. 教科書英語: ニューホライズン中2 - 英語漬け.com, 7月 7, 2025にアクセス、  
<https://www.eigo-duke.com/tango/textindexchu2nh.html>
12. 中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 外国語編 - 文部科学省, 7月 7, 2025にアクセス、  
[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afile/2019/03/18/1387018\\_010.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afile/2019/03/18/1387018_010.pdf)
13. ニューホライズン 1 本文・和訳・見える化チャート - RAIT会, 7月 7, 2025にアクセス、  
<https://www.raitclub.com/sentence-s-diagram/new-horizon-1/>